

能登半島地震

放射線防護6施設に損傷

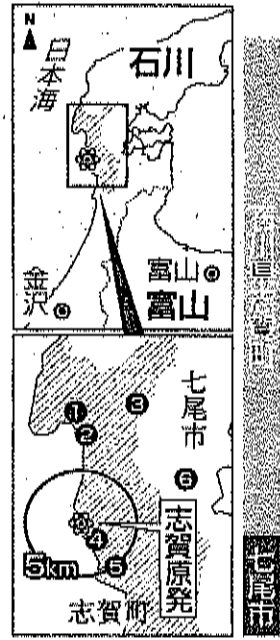
志賀原発30キロ圏、一部閉鎖

北陸電力志賀原発（停止中、石川県志賀町）30キロ圏にあり、事故時に高齢者らが一時避難する21の放射線防護施設のうち、能登半島地震で6施設に損傷や異常が起きたことが21日、自治体などへの取材で分かった。うち2施設は使えずに閉鎖し、病院など別の2施設は患者らを移した。断水は全21施設で起きた。緊急時に支援が要る住民を守るという役割を果たせなかった恐れがある。

閉鎖した二つは被ばくを防ぐ機能を維持できず、残る5施設も地震後長期間、機能の確認ができなかった。内閣府によると、全国原発周辺には計約3000の防護施設がある。屋内退避の在り方を定めた指針の見直しを始めた原子力規制

委員会は施設の耐震化などを論点としない構えだが、地震の被害の大きさを踏まえてると各地の避難計画の実効性が問われそうだ。原発30キロ圏の自治体は放

能登半島地震で損傷や異常が起きた放射線防護施設と被害



施設名	主な設備損傷や異常
① 富来小学校 → 1月30日閉鎖	柱や天井損傷。防護区画で雨漏りや窓に隙間。陽圧化装置が十分に機能せず スプリンクラーが壊れ廊下など水浸しに。区画内の柱損傷。陽圧化装置の吹き出し口脱落。1月5日までに入院患者と入所者計72人転院
② 富来病院	駐車場の埋設浄化槽が地面隆起で損傷
③ 稗造防災センター 特別養護老人ホームはまなす園	スプリンクラー作動。廊下水浸し、エレベーター使用不能。防護区画内の入所者50人隣接施設に移動
④ 総合武道館 → 1月2日閉鎖	防護区画外の武道場の天井パネル落下、崩落の恐れ
⑤ 中島地区コミュニティセンター ⑥ 豊川分館	自家発電機が起動せず、数日停電

射性物質が拡散する事故に備え、一部の病院や社会福祉施設、学校などに気密性や気圧を高める被ばく対策を施した防護区画を設けている。国の指針に基づき、乳幼児や高齢者、傷病者などすぐに逃げられない「要配慮者」が一時的に身を寄せせる。志賀町は12施設あり、昨年10月時点で811人の要配慮者が暮らす。

6施設のうち志賀町の「町立富来小学校」は建物の被害が激しく今年1月30日に閉鎖。防護区画は天井が損傷し雨漏りが発生、トイレの窓に隙間ができた。町の担当者が2月7日、気圧を上げ外気の侵入を防ぐ「陽圧化装置」を起動した。必要な気圧にならず、担当者は「気密性が保てず駄目だった」と話した。